



COLUMN

鎌倉の猫事情 第五十六話

「私の鍵を貴方に預けましょう」と、言って下さったお隣のご主人の並々ならないご厚意に甘えて、病気で手負いのクウの治療を始めることにしました。とはいっても、グーニーとのいさかいが原因で家を出、お隣に安住の地を求めたクウにとっては、いくら私がスィーピーの出産に立会い、まだ目も見えぬ頃のクウの面倒を見たといっても、私はもう警戒すべき人間の一人でしかないでしょう。お隣は留守とわかっていながらも、裏戸の鍵をそっと開け、手にはもう大きくなった猫のためののゲージを下げ、「失礼しまーす」と小声で言いながら家に入ってみると、案の定クウはあきらかに、全身で私を警戒し、逃げる体制で頭を低く下げてこちらをにらんでいます。私は無理に笑顔を取りつろって、「あら、クウちゃん、久しぶりねえ。どうしたのお?」と近づき、あっという間に、もう6キロくらいはあるかと思われるクウの首根っこを捕まえ、あらかじめ開けておいたゲージに押し込みました。一度入ってしまうと、観念するのでしょうか。たいていの猫は、おとなしくなります。ほっと一息ついて、よそ様のお家にこんなにして忍び込んだのは始めてのことですから、なんとなく変な気がして周りを見渡すと、近くにプラスチックの引き出しケースがあるのが見えて、「あれ?うちと同じの...なんだか変なことが気になったりするものね」と、少し可笑しくなりました。プラスチック越しにどうやらそれは猫の餌入れとわかり、失礼とは思いつつその引き出しを開けてみました。するとそこには、小さな小袋入りの猫の好きそうな餌があれやこれやと入っていて、猫が飽きないように、色々な味を変えてあげているようです。うちだグーニー1匹の時はまだ小鯊だの何だのと考えてあげたものの、スィーピーが加わり、半年おきに子猫がどんどんと産まれるようになってからは、もっぱら特用袋の一番大きいのを買うようになっています。こんな風に、クウもすみれも大切にもらって、本当に良かった、本当にありがとうございます、と感謝しつつ、クウが座り込んでいる大きなゲージを抱えて、家を出ました。そして用意しておいた車の助手席にゲージを乗せて、うちの猫一家全員の掛かりつけの動物病院へと向かいました。

車で10分ほどで、その病院に到着しました。待合室にはいずれも不安そうに身を硬くして、犬や猫が並んで待っています。クウもゲージの格子の隙間から不安そうに周りを見渡しています。ゲージの間から見ても、血で真っ赤になって、千切れかかったように見える耳が痛々しいです。私達の番が来て、治療室に入ってクウを、手術台の上に乗せると、色々な症状を見慣れている獣医さんも、看護士さんも、息を呑みこむようにクウの体を眺めました。手足を持ち上げると、手足の内側からお腹まで血で真っ赤になっています。待合室からガラス越しに見ていたお客さんもびくつき、可哀想に...と呟いています。先生はクウの体をあちこち診察し、「アレルギーの症状が悪化したんだと思います。痒くて自分でこんな風にしちゃったんだと思うので、この症状が治まるまで、入院させて下さい。数日です。会いたくなったら、夜8時までなら何時でも会いに来ていいですよ」優しい先生の言葉に、「本当によろしく願います」と頭を下げました。

————— to be continued

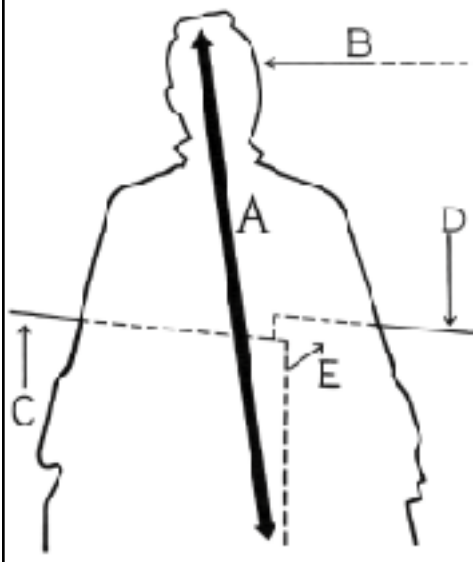


Northern

北端の地

「今年は、稚内まで行こう」ということになった。私たちは、この数年来、真冬の北海道へ行くの楽しみにしている。極寒の網走刑務所、氷の屈斜路湖、凍てついた知床の海...さあ、今年は?という時に、遠く故郷に住む友人から「今年は宗谷へ行きます」というメールが入った。「宗谷?日本の最北端?」そうか、その手もある。抜け駆けしようということで、稚内空港へと向かった。上空から真っ白い大地が続いているのが見える。空港の出口で私たちは、ある人を探していた。ガラス越しにニコニコ微笑む二人の女性。あの人達に違いない。稚内にはミルクホールのお客さんがいるはず。今回の目的地を決めた理由の一つでした。ミルクホールタイムスを送って下さいと、10年ほど前に切手が送られてきた、その人の住所が稚内だった。その住所が気になって、なくさないようにずっと保管していた。住所と名前だけで、女性ということしかわからなかったけれど、今回思い切って連絡をとってみることにした。手紙の返事の電話の向こうの声は明るかった。友人に車を出してもらい、稚内を案内して下さい。ご親切に甘えることにした。10年を経て初めて会う私を心から歓迎してくれた人、宗谷岬へ行って、その後雪原が見たい、何も無いところが好きなんです、というわがままを聞いて、どこまでも雪の中を車で走らせてくれた友人の女性。ただただ白い北端の地には、大きな白い風車が舞い上がる雪けむりの中でまるで溶け込むようにゆっくりと回っていました。そして暗くなつての酒宴。すっかり意気投合した4人の話題次から次へと尽きません。どこか懐かしく、楽しい時間が過ぎました。

寂しげな北の地の風車と、友人達の笑顔がいつまでも心に残る旅でした。



FASHION

大正のモードと 夢二のファッション

夢二、洋装事始 夢二、洋服を着る

夢二が洋服を着るようになったのはいつの事だったのでしょうか。洋服姿の夢二の写真で、撮影時期が明確で、かつ当時の多くの人々の目に触れたものは、おそらく明治43年(1910)5月に刊行された『夢二画集 花の巻』の巻頭を飾った著者近影の写真だと思われます。

夢二は全体に黒っぽい衣服を好み、見るからに新しい衣服よりも、着慣れた洋服に愛着を持っていたようです。また、衣服の値段や流行にかかわらず、着こなす人のセンスとコーディネートに関心があったと言われています。

夢二が同時代の女性をモデルに洋装を描き始めた関東大震災以降、街を闊歩する女性たちの様子に変化が現われました。関東大震災以後、生活改善運動による生活全般にわたる洋風化によって、女性の洋装化も推奨されたのですが、一般女性にはいまだ抵抗感がありました。が、この頃、伝統的な着物の着付けにも明らかな変化が現れ始め、若い女性の間で帯を胸高に締めて胸を大きく開け、脚部を長く演出した着付けが流行し始めました。この着こなしの変化に、夢二は関心を寄せ、「……銀座の散歩に浴衣を引っ掛けた16、7の娘は、まるで日本のキモノをアメリカの娘がつんつてんに着たという格好です。襟をぐっと開けて、乳の上で帯をしめつけて、腰帯は申しわけに胃袋の上の肋骨のとこへ、バンドのようにしめて、そこから下はどぼんとまるでスカートを引いたようにキモノを着たところは少しもおかしくない。発育の好い肉体を従来の着物が表わし得なかった包み方で、実に新しい感覚を持ったものだ。これは洋服が表わすことの出来ない日本のキモノが持つ美しさだと思う」

「竹久夢二のおしゃれ読本」より抜粋

HISTORY

KAMAKURA・・・場所の記憶 No.3

春の嵐の夜は、なにか悲しげに泣いているような風の音に、寢床に入ってもなかなか寝つかれないものです。

かつて町中が古戦場だった鎌倉には、色々な悲しい話が残されています。岐れ道から鎌倉宮に向かって40メートルくらい行った右側に小さなお地藏さまがあります。お地藏さまの左手、道路から2メートルばかり下った所に小さな川が流れています。昔、ここは魔の淵と呼ばれ、狭いながらも青黒い水がとうとうと流れていて、たくさんの尊い人命がここに住む魔物の餌食になったそうです。その後大正年間に杉本寺の住職の発願でお地藏さまが安置され、それから不気味な話は聞かなくなったそうです。土地の言い伝えでは、「この辺り帯は昔からたたりがあって畑にしてもここを耕作すると必ずけがをしたり病気になったり、ときには死ぬようなことがあって、この土地は買う人さえいなかった」ということです。ここは、昔鎌倉の染谷太郎太夫時忠の娘が驚にさらわれた時、その血がしたたり落ちた所だともいいます。なんとなく作り話みたいな話ですが、さまざまな経緯があって言い伝えられたのでしょうか。ここに限らず少し前の鎌倉の町には「人が住むところではない」と言われた場所が方々にあり、そういう場所に工事の人が入ると必ず何か悪い事が起こると聞きました。現に馬や人の骨がぎっしりと埋まっていたようです。そしてそれからまた何年かの時が流れ、いつの間にか禁断と呼ばれていた土地に、明るく開放的な造りの高級マンションや、レストランが建てられていて、楽しげな人や、立派な首輪をつけた犬などが出入りしているのを見かけます。

いつだったか、稲村ガ崎に下宿してミルクホールでアルバイトしていた学生が、「部屋に頭のない馬に跨った武士が、現れるんです・・・」と、言って不眠症に悩まされていたこともありましたが。

きつときつと先人達が色々な教訓を私たちに言い残したかったのだらうと解釈してはいますが、こんな風の強い晩には不安な気持ちになります。それに、冬の冷たい季節より花の咲き乱れる春の方が、なんとなく山も谷も妖しい気配が漂っているのですよ……

一部「かまくら子ども風土記」より抜粋



鎌倉ミルクホールタイムズ

ミルクホールの不思議が全てわかる
B5判-200page ¥1.800

ミルクホール開店1976年
「鎌倉ミルクホールタイムズ」
創刊1986年

ミルクホールを開店して10年、未だお客様の少ない寂しい店内を見渡した
マスターの、

「お客さんが退屈しないですむように、
ミルクホールのフリーペーパーを、作りなさい！」
という一言で1986年4月、ミルクホールタイムズの創刊号を発行しました。
そして30年

2006年・100号・30周年を記念して一冊の本になりました。
ミルクホール30年の軌跡を御覧下さい。

お申し込みは、ミルクホールへ。ネットでのお申し込みもできます。

PARTY

ミルクホールで
少人数のパーティを
企画してみませんか？

ミルクホールでは、奥のBAR ROOMを貸切りにした、
数人から15人程度の、パーティを承っております。
お友達同士のランチパーティや、ティパーティに、ご利用ください。
夜のパーティには、ご希望を伺い、お好みのお料理とお飲み物をご用意させていただきます。どうぞ、お気軽にご相談下さい。

Cafe'
Milk Hall
& ANTIQUES

phone 0467-22-1179

ANTIQUES

リニューアルOPEN!!

ミルクホールのアンティークショップが、
少し若返ってオープンしました。

店内全体が今までより30歳ほど若返った感じです。
大正ロマンの香りたどよう懐かしさから
昭和初期の、気だるさと活気がみなぎる混沌とした楽しさへ
新しいミルクホールのアンティークをお楽しみ下さい

新入荷情報



♠ 和洋家具

明治から昭和初期にかけて
主に日本で作られた和洋家具

- ★★明治時代帳場筆筒二段式 ￥128000
 - ★★昭和初期ガラス入り本箱 ￥53000
 - ★大正時代水屋筆筒二段式 ￥98000
 - ★アンティークカフェチェア 特価 ￥10000より
- 昭和丸椅子新入荷・文机・ちゃぶ台
茶筆筒・卓上本棚ほか

♣ 古陶磁

- ★★★★大正色絵各種新入荷 小皿 ￥300より
- ★★明治印判銅版大皿・小皿新入荷
- ★★古伊万里印判小皿新入荷
- ★★★★好評につき再度 入荷!
- 昭和20年代デッドストック四国砥部焼
鯨染付小皿・楕円皿など ☆猪口・なます皿
- ★伊万里7寸皿各種 の入荷はありません
- 伊万里青磁そば猪口・皿各種
- ★明治九谷絵皿・猪口
- 信楽大壺・常滑大壺
- 李朝白磁・青磁



♥ 古民芸

- ★透かし彫り欄間新入荷 ￥5500より
- ★衣桁新入荷 ￥4800
- ★箱各種新入荷 ￥4500より
- ★格子建具新入荷
- ★すだれ各種新入荷
- 大正漆器各種
- 糸巻き
- 農機具など

◆ アンティーク

- ▶ 夢二戦前絵葉書額入り 新入荷!
￥33000
- ★吉原炎上映画スチール写真額 新入荷
￥2000より
- ★★昭和お菓子ピン各種 新入荷
- ★レプリカ照明器具各種
ランプシェード金具付 ￥6800より
- ★キューピー人形各種
額絵・ステンドグラスなど

✂ 古布・帯

- ★★明治藍染布団皮 新入荷
(90cm) ￥3000
- ★裂き織帯各種 新入荷
- ★名古屋帯各種 ￥3000より
- 珍品! 戦争中の兜柄から、
昭和初期のあでやかなもの
締めやすい現代ものなどなど
- ★半幅帯 ￥2000より
- ★★端布色々 新入荷
- 楽しい端布が沢山入りました。
大きな色々使い方色々、
絞りや、紬、銘仙、モスリンなど
少し前の日本の布地。



⚓ アクセサリー

- ★アンティーク櫛かんざしセット各種
- ★クリスタルプレスレット
- 色ガラス指輪・ネックレス・薔薇ピアス
- アンティークビーズバッグなど



LIVE

ハーフムーンのライブで、
MILK HALLのBAR TIMEを

お楽しみください

4/22 Sat. pm 7:30

by 琢磨 仁 (Jin Takuma)

琢磨 啓子 (Keiko Takuma)

HALF MOONの音楽は
愛と平和を歌います。

<http://www.e-half-moon.com/>

INFORMATION

勝手ながら、4月16日は都合により夕方4時まで閉店させて頂きます。夕方4時半より通常営業致します。
4月のライブは都合により第四土曜日に変更させて頂きました。